

「神はどのように私たちを強めてくださるのか？」

ともに礼拝し、ともに聖書から学ぶ機会を与えてくださり、ありがとうございます。
きょうの題は、「神はどのように私たちを強めてくださるのか？」です。

私たちは何かをするときに、よく、「私の最善を尽くします」と言います。でも、そんな時に、神様は私たちにどのように働いてくださるのでしょうか？

私たち牧師は、メッセージをよく準備して、より良いメッセージを語ろうとします。そして、会衆の方々は、それをよく聞いて、実行しようとしています。すばらしいです。では、神様は私たちにどのように働いてくださるのでしょうか？

祈り:

父なる神様、私たちがイエス・キリストを信じたときに、あなたは私たちを救ってくださいました。さらに、あなたが私たちを強めると言われます。あなたが実際にどのようにそれをなさるのかをはっきりと教えてください。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

エペソ 3:14-19(新改訳聖書2017)を読みます。

¹⁴ こういうわけで、私は膝をかがめて、

¹⁵ 天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父の前に祈ります。

¹⁶ どうか御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。

¹⁷ 信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。そして、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

¹⁸ すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、

¹⁹ 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。

1. 父の前に祈る v14-15

エペソ 3:14

¹⁴ こういうわけで、私は膝をかがめて、

ここでパウロは、神の前に膝をかがめて祈っています。祈るときには跪かなければならないわけではありません。しかし、パウロは祈りに集中しようとしています。ですから、神の前に跪いています。私自身も普通は、祈りのときにあまり跪きません。

しかし、本当に祈らなければならないという時には、神様に状況を変えていただきたいと思うときには、跪いて祈ります。

事例 1:

私が最初に、膝をついて祈ったのは、クリスチャンになってから3年くらい経ったときだと思います。私は、結婚のために祈りました。妻とのデートが始まっていました。私たちは同じ教会に行っていました。デートでいっしょにいと安らぎを感じましたし、生涯をいっしょに過ごしたいと思っていました。しかし、それが、神のみこころであるのか、確信がありませんでした。

ですから、神のみこころを示してくださいと、祈りました。跪いて、私の心の底から祈りました。「彼女と結婚することがあなたのみこころかどうかを教えてください。」

そして次に彼女と出会った時に、日曜日に教会でですが、私の心に神の平安があることを感じました。神様が、「そうだよ。前に進みなさい」と言っておられると感じました。しかし、私はさらに神様にすがりたい思いでした。そして、祈りました。「彼女と結婚することがあなたのみこころであるようですが、これは本当に大事な決定です。本当にあなたのみこころですか？」次に家内と出会った時に、また、神の平安が私の心にあるのを感じました。しかし、私は、もう1回神に祈りました。「本当に、本当にあなたのみこころですか？私たちの結婚生活をあなたが完成させてくださいますか？」この3回目には、神様は豊かな平安で答えてくださいました。ですから、私は祈りました。「彼女との結婚があなたのみこころであることが分かりました。あなたが私たちを確かに導いてくださることが分かりました。」そして、家内にプロポーズして、家内も応答してくれて、ですから私たちは結婚しました。

それから、私たちは本当に多くの言い争いや、衝突や、不満を経験しました。しかし、「間違った結婚をしたのかも知れない」と思ったことは、ただの一度もありません。そのような中でも、いつも「でも神様、ありがとうございます。あなたが私たちを一つに導いてくださいました。あなたがさらに導いてくださいます。私たちが心配する必要はありません。私たちの結婚を通して、あなたの栄光が表れるように、あなたがしてくださいます」と思っています。

実例 2:

私が跪いて祈った2回目は、牧師になってから3年ほど経った頃です。当時、教会は地域の会館を借りて集会を持っていました。私たちは、教会の建物を持ちたいと思っていました。そのための献金もされていました。適当な建物を買うか、土地を買って、教会堂を立てたいと思っていました。

そのような計画をどう進めたらいいか、私には分かりませんでした。ですから、まず私が神に祈るべきだと思いました。神様に導いていただこうと思いました。そこで、月曜日には、朝食と昼食を抜いて断食して、夕方まで祈ろうと決めました。そのように、数か月やりました。しかし、何も起こりませんでした。月曜日を使って数時間祈ると、牧師としての仕事の時間がそれだけ少なくなります。忙しくなってしまうと、毎週のメッセージの準備の時間も減ってしまいます。準備不足を感じながらメッセージをすることにもなりました。神様に対して不満を覚えました。それまでは、私が祈りに打ち込めば、神様を近くに感じて、天の平安を経験するだろうと思っていました。しかし、私の場合はそうなりませんでした。「私は祈れないんだ」ということが分かりました。「祈りは簡単だ。祈ればいいんだ」と思っていましたが、私は祈りに打ち込めないんだ」と知りました。ですから、私は、「主よ。あなたのみこころを行ってください。ただあなたのみこころを行ってください。それが最善ですから。あなたのみこころを行ってください。あなたのみこころを行ってください」としか祈れないようになってしまいました。しばらく後には、断食をして祈ることをやめてしまいました。それは、私には、祈りにふさわしい祈りなんかできないと思ったからです。神様に言いました。「私には、あなたが聞く価値があると思ってくださるような祈りはできません。」

それから、教会堂の建設に向けて何かを進めていくことは私にはできないと思いました。

その年の終わりに、元旦礼拝のメッセージの準備のために、創世記18章10節を読んでいた。

創世記 18:10

¹⁶「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」

神がアブラハムに言われます。「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」

この箇所を通して、神様が私の心に、「来年の今ごろあなたには教会堂ができています」と語ってくださったことを感じました。それははっきりと私に示されました。ですから、元旦礼拝では、「この箇所を通して神様が私に、あなた(私たちの教会)には、来年の今ごろ、教会堂が与えられていますと語られたと信じています」と言いました。この時点では、神様がその通りにしてくださるとは信頼できていませんでした。しかし、神様が来年の今ごろまでにそうすると語られた、とは信じていました。

そこで私は励まされて、新年早々、教会で不動産屋を尋ねていきました。いくつかの物件を紹介してくれましたが、私たちの希望にかなう物はありませんでした。そこで、私たちは、教会堂を建てるのは簡単ではないと分かり、できることはないということになりました。

何も進展がなく、半年が過ぎました。ある教会員が和風の酒場が売り出ているチラシを持ってこられました。私は積極的ではなかったのですが、数か月のうちにその物件を買って、改装して教会にしようと決めました。ある教会員が良い建築士を推薦して、その人に改装計画を作ってもらうことになりました。その建築士が、腕の良い工務店を紹介してくださり、私たちはそこに改装工事を依頼しました。教会では完成の期限を決めませんでしたが、大工さんたちは熱心に働いて、年末ギリギリに仕上げてくださいました。ですから、その場所での最初の礼拝が、翌年の元旦礼拝でした。私は、神様のみことばの正確さに驚いてしまいました。神様は私の心に、「来年の今ごろあなたには教会堂ができています」と語ってくださいました。

私たちが、自分には、神様に聞いてもらえるような祈りはできないと思っても、神様は、私たちの真実な祈りを聴いてくださり、神様の真実をもって答えてくださいます。

エペソ 3:15

¹⁵ 天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父の前に祈ります。

「天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父」
これはどういう意味でしょうか？

<図解>

Greek:	patêr	⇒	patria
English:	father		family
ギリシア語:	パテール	⇒	パトリア
日本語:	父		家族

新約聖書のギリシア語で、「父」は、「patêr」です。「家族」は、「patria」です。’

「patria」は、「patêr」からできたことばです。ですから、「父は、家族の父です」という意味になります。

父親は家族全体の世話をし、家族のことに責任を感じています。もちろん母親もそうですが、ここで、「天にある家族」とは、すでに天に行った聖徒、旧約の聖徒や、すでに天国行った新約の聖徒です。「地にある家族」とは、今地上で生きているクリスチャンのことです。父親から母親を通して、家族が生まれます。家族全体のことに責任を持ち、家族の幸せのために心を遣います。同じように、父なる神も、神の家族全体のためにいつも心を砕いておられます。特に、今地上にいるクリスチャンたちのために。

マタイ 6:31-32

³¹ ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

³² これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

実例 3:

私が高校生の時に、家族で東京の下町に住んでいました。時々銀座に行って、通りを歩いたり、お店の商品を見たりしました。家からそんなに遠くではありません。ある日、大きな文房具店に入って行きました。そこには、あまり高くない英文のタイプライターがありました。これが欲しいと思うものがありました。そこで、私は父に買って欲しいと言いました。数日後に、父が喜んで私を連れて、銀座のその店に行って、そのタイプライターを買ってくれました。私にとって、もっと英語を勉強しようという励みになりました。神は、私たちひとり一人に何が必要かを知っておられます。そして、それらを私たちに与えたいと思っておられます。神様は私たちの父ですから。

実例 4:

月に一度、あるクリスチャンと出会う、聖書を学んでいます。彼は古物商です。まだ使える物を引き受けて、ネットを通して、それを売っています。商品を運ぶためには、ある程度の大きさのワゴン車が必要です。去年、彼の車が壊れました。ですから、彼は小さい方の車を使っていました。そこで、良い車を安く買えるよ

うにと、いっしょに祈りました。彼は、中古車を扱っている友人に、適当な車を探してくれるように頼みました。すると、すぐに、その友人が、カーオークションで、良い車を見つけました。その車は少し古いのですが、まだ19,000キロしか走っていませんでした。4輪駆動にもなります。特に冬場の運転には必要です。さらに、冬タイヤが4本、中に積まれていました。その中古車業者の友人は、「この仕事を30年やっているけれど、こんな良い車が出てくるなんてあり得ない」と言っていました。神様は、彼にちょうど必要な物を与えられました。

父は、必要な物を与えてくださるだけでなく、

2. 父が私たちを強めてくださる v16

エペソ 3:16

¹⁶ どうか御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。

神は、どのくらい私たちを強めてくださるのでしょうか？

御父が、その栄光の豊かさにしたがって、

神は、私たちの努力に応じて私たちを強めてくださるものではありません。私たちの信仰に応じてでもありません。御父の栄光の豊かさに応じてです。ですから、私たちが自分の信仰を大きくして、神様に強めてもらおうとする必要はありません。

そのように強めてくださる神を信頼するだけです。

神は、どのように私たちを強めてくださるのでしょうか、私たちのどの部分を強めてくださるのでしょうか？

内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。

では、私たちの「内なる人」とは何でしょう？

Ⅱコリント 4:16

¹⁶ ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

では、私たちの「外なる人」とは何でしょうか？ 私たちの肉体でしょうか？ そうです。私たちの肉体は、年齢とともに衰えていきます。しかし、「外なる人」は、私たちの肉体や目に見える部分だけではありません。

では私たちのメンタルな部分や、メンタルな能力はどうでしょうか？ これらも、衰えていきます。私たちの意志の力や、活力も、時によって、また年齢とともに、衰えていきます。

ですから、「私は頑張ります」で生きるなら、「外なる人」で歩んでいることになります。

では、私たちの「内なる人」とは何でしょうか？ それは日々新たにされているものです。

<エペソ 3:16>

エペソ3:16では、「内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように」とあります。

私たちの「内なる人」とは、御霊(聖霊)が働いて私たちを強めてくださる部分。

ですから、私たちが自分の最善を尽くそうとするよりも、神は、私たちが神を信頼して、神に拠り頼み、神の御霊が私たちの「内なる人」に働いていかれることを求めています。

では、私たちがどのようにしたらいいのでしょうか？

実例 5:

私には、東京で、基督教の出版社で働いている娘がいます。アパートで独り暮らしです。2年前に、娘に

は、脳の動脈瘤が破裂して脳内出血が起きました。そのまま床に倒れて、一日半意識が戻りませんでした。娘の会社の上司(女性)は、娘のアパートを訪ねて、大家さんに扉の鍵を開けてもらおうと、娘は床に倒れたままでした。娘を起こして、救急車を呼びました。そして(詳細は省きますが)娘は病院に入院しました。

私は、2年前に、このことをお話ししましたが、その時に私自身が経験したことをお話ししたいと思います。私たちは病院からの連絡で、このことを知りました。医師の説明では、「差し迫った危険はない」ということでした。私たち夫婦は東京の病院に行き、説明を聞きますと、頭蓋骨の一部を切り取って脳の中の手術が必要とのことでした。手術には9時間ほどかかるそうです。手術の日に、私たちはまた行きました。手術の間、2時間ほど経ったときに、突然手術室から呼ばれました。娘が、手術で使った薬に反応してアナフラキシーショックを起こしたとのことでした。手術は翌週に延期になりました。

私たちは、また手術の日に行きました。手術には、10時間以上かかりました。そして成功です。私たちは喜んで帰りました。翌日に、娘の脳の血管造影検査が行われて、もう一つの動脈瘤が見つかりました。医師から私に電話で説明があり、来週また同様な手術をすることが必要と聞きました。私はまた行きました。今度は手術に9時間以上かかりました。私は娘の手術のために、3回東京に行きました。それぞれの手術の3日前には、医師からの説明を聞いて承諾書にサインをするために行きました。ですから、娘が回復して退院するひと半月の間に、私は東京に8回行きました。

その間に、私は毎週の説教があります。神学校では、毎週1クラスを担当していました。普段でも、それだけで、だいたい私の仕事の予定は、ほぼ一杯です。しかし、この時は、私は頑張らなければいけないと思うことがありませんでした。いつも、神様が私にさせようとしておられることは必ずできるようにしてくださると、いつも思っていました。ですから、心配することがありませんでした。

これは神様が、私の「内なる人」を神の御霊によって強めてくださったからだと思います。ですから、私は自分の信仰を奮い立たせるというような必要もありませんでした。ただ神様に信頼していました。自分に信頼する必要もありません。ですから、とても楽です。

この途中に、私の友人の牧師から依頼された国際カップルの結婚式がありました。新郎は、インドの方で、新婦は日本人でした。打ち合わせのために出会って、私は2か国語でプログラムを作って、司式とメッセージは英語と日本語でしました。準備の段階で花嫁さんは洗礼を受けることになりました。神様がしようとしておられたことを神様がされました。

神が私たちを強めてくださる、だけではありません。

3. キリストが私たちのうちに住んでおられる v17a

エペソ 3:17a

17a 信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。

クリスチャンは、キリストが私たちのうちに住んでおられると信じています。聖書がそのように言っていますから。キリストが本当に私たちのうちに住んでおられるなら、キリストが私たちに影響を与えて、私たちに何か変化をもたらさないはずがありません。もしキリストが本当に私たちの心に住んでおられるなら、キリストがおられることが必ず自分自身に分かり、まわりの人々にも分かるはずです。

クリスチャンとして、キリストが私たちのうちに住んでおられると信じているのなら、キリストがご自身を、私たち自身に表してくださる、そして私たちのまわりの人々にも表してくださると、信頼すべきです。

ですから、聖書は言います。

4. キリストの愛が、神ご自身が、私たちを満たしてくださる v17b-19

エペソ 3:17b

17b そして、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

数年前に、友人が小さなバラの枝を数本分けてくれました。私たちは家の周りの狭いところに植えました。バラの季節が終わると、刈り込んで、小さな株だけが残ります。しかし、翌年の春には、大きくなって一面に

バラの花を咲かせてくれます。

私たちが、キリストの愛に根ざしているなら、その愛が現れます。それは私たちが努力するから、ではありません。私たちがキリストの愛に根ざしているから、キリストの愛に基礎を置いているからです。

エペソ 3:18

18 すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、

ここでパウロは祈っています。「(あなたがたが)すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり」です。

私たちは、ここで、「いったいどうしたら、我々人間がキリストの偉大な愛を知ることができるのだろう。そんなことは無理ではないか」と思うなら、パウロが語っていることとは、違います。

パウロは祈っています。「(あなたがたが)すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さ(キリストの愛の偉大さ)がどれほどであるかを理解する力を持つようになり」です。

ですから、パウロが言っているのは、「すべての聖徒(クリスチャン)たちは、キリストの愛の偉大さを知ることができる。だから、あなたも私もその力、キリストの愛の偉大さを理解する力をいただくことができるし、それをいただくべきだ」ということです。

神がキリストの愛を理解する力を与えてくださる時に、私たちはその愛を知るだけではなく、キリストの愛に満たされ、そして神ご自身に満たされます。

エペソ 3:19

19 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。

人間の知識を超えたキリストの愛を、どうして私たちが知ることができるのでしょうか。

それは全く可能です。神が私たちを神ご自身の満ちあふれる豊かさで満たしてくださるのですから。

これは、人間の知識をはるかに超えたことです。しかし、神は、すべてのクリスチャンにこのようにしてくださいます。

それは神がされることです。神がすべてのクリスチャンに、そうしたいと思っておられます。ですから、私たちが神に、そうしてくださいとお願いすればいいんです。

実例 6:

数年前のことです。教会員のある婦人の方が、役員の一に悲しいメールを送って来られました。役員会では、私に彼女にアドバイスをしたいということになりました。私は、考えて、考えて、考えて、彼女にメールを送りました。彼女は深く失望されて、教会を休みがちになりました。特に私が説教をするときには休まれました。彼女は他の人とは普通に話をされるのですが、私には話もあいさつもされなくなりました。私は、「もう私は彼女には何もできない。彼女が悔い改めるべきだ。私じゃない。」と思いました。彼女はクリスチャンとしても長い方です。教会でもいろいろな奉仕をしてこられました。しかし、私は、彼女からはあまり喜びを感じないな、と思ってきました。私にとって、彼女は、つまりかれないようにと、気を遣って配慮する人でした。私は、どうしたら彼女のあり方が変わって、喜びに満ちたクリスチャンになるだろうかと思ってきました。しかし、彼女にそんな変化は感じませんでした。神の愛が表れている感じではありませんでした。

そのようなときに、私の方が悔い改めに導かれました。そして跪いて祈りました。「なぜ、彼女の信仰が目に見えて成長してこないのですか？ 彼女がクリスチャンであることは間違いがありません。しかし、あなたの喜びが彼女の中にあるようには感じません。神様、彼女を変えてください。変えてください。あなたの喜びと愛を、あなたがすべてのクリスチャンに約束しておられるように。」その後も、私が彼女の事を思うたびごとに、彼女のために、祈って、祈って、祈りました。

すると、彼女の態度が変わってきました。彼女は、人々に喜びを持って接していかれるようになりました。私は、神様の愛と喜びが彼女の中にあるのを感じました。助けが必要なことがあると、彼女は気づいて、よく考えて、自分にできることをしていけます。彼女は役員に選ばれました。私は彼女を完全に信頼しています。彼女の神様への信頼と愛が成長しています。キリストの喜びが彼女の中にあるのを感じます。

祈りましょう。

父なる神様、あなたは私たちに必要なものを与えてくださいます。私たちの目に見える必要だけでなく、はるかにそれ以上に、あなたは私たちを、あなたの愛とあなたご自身で満たそうとしておられます。神様、私たちがあなたに、「あなたご自身を私たちを通して現してください」と祈らせてください。そして、あなたの栄光が私たちを通して現れるようにしてください。

イエスの御名によって、祈ります。